カレーの市民 ❷

望むものはちがっても、命がけで何かを守りたい、
かちとりたいと思うことがあります。
そしてその心を貫くために、かけがえのないものを失うことがあります。
もしかしたらそれは、自分自身の命であるかもしれません。
あなただったら、そんな時の心境を、
どんなふうにからだで表現するでしょうか……

「カレーの市民」の中で
あなたが共感をおぼえるのは、
どの人物ですか？
6人の中からひとりを選んで、
スケッチをしてみましょう。

彫刻作品は、
どの方向から見なければならないという
きまりはありません。
彫刻のまわりを自由にまわって、
自分の視点をさがしてみましょう。

情熱の彫刻家、オーギュスト・ロダン

（1840−1917）

ロダンは、フランスに生まれた彫刻家です。《カレーの市民》は、1884年、ロダンが44歳のときに、カレー市からの依頼によって制作をはじめた作品です。当時の人々は、勇敢に死にたちむかうカレーの市民像が表現されることを期待していましたが、ロダンが表現したのは、生と死の間にたたされ苦悩の姿をあらわにした、カレーの市民たちでした。
ロダンの作品は、周囲から大変な非難をあびましたが、彼自身の作品への思い入れは強く、最後まで自分の意志を曲げることはありませんでした。実際に作品がしかるべき場所に置かれたのは1924年、ロダンがなくなってから、実に7年も後のことだったのです。

? クイズ2

地図の中の番号で答えてみましょう。

A. イギリス軍が攻めこんだ
カレーという町はどこでしょうか？
（　　　　　　　）

B. ロダンが生まれた
パリという街はどこでしょうか？
（　　　　　　　）

（こたえは29ページの下）

クイズ1のこたえ ①−㋒ ②−㋕ ③−㋓ ④−㋐ ⑤−㋔ ⑥−㋑

スポットライトが上から照らされています。
どんなところが明るく、
どんなところが暗くなっているでしょうか。
（ロダンは、人物像の表面の凸凹を、力強く大胆に表現しています。）

命がけで市を守った
“カレーの市民”たちと、
魂のすべてをかけて創作に挑んだロダン。
《カレーの市民》は、市民たちとロダンの、
苦悩と情熱とによって生み出された、
壮大なロマンを秘めた作品だと
いえるかもしれません。